

令和3年度第3回長野市社会福祉審議会児童福祉専門分科会
 (長野市版子ども・子育て会議)
 会議要旨

- 開催日時 令和4年1月20日(木) 午後2時から午後3時30分まで
- 開催場所 長野市役所第一庁舎7階 第一・第二委員会室 (Web会議併用)
- 出席委員 水口会長、宮下(弥)副会長、塚田委員、峰川委員、和田(典)委員、重野委員、木原委員、和田(勇)委員、宮下(孝)委員、田中委員、中村委員、村田委員
- 欠席委員 塚原委員、山田委員、水野委員、市川委員、白鳥委員
- 事務局出席者 日台こども未来部長、花立こども未来部次長兼こども政策課長、河西子育て支援課長、島田保育・幼稚園課長、塚田生活支援課長ほか
- 傍聴者 なし
- 報道機関 2社

発言者	内容
	1 開会
会長	2 挨拶
事務局	3 議事 (1) 令和4年度 長野市の保育所等保育料 (利用者負担) について 資料に基づき説明 《質疑応答》
委員	長野市は全国平均を上回るペースで少子化が進行している。出生数は、1995年が4,086人、昨年が2,500人ほどで、およそ1,500人、3割を超える子どもが産まれなくなっている。色々な状況があると思うが、子どもを産みづらくなっている。子育てのしやすさ等々を考える中で、改めて経済的な負担についても、もう少し何かできないかという思いがある。令和4年度の保育料がどうということではないが、その次に向けて、色々な知恵を結集する方法が示すことができればと思っている。
事務局	(2) 幼保連携型認定こども園の認可等について 資料に基づき説明 《質疑応答》
委員	令和4年度から認定こども園に移行する3園合わせて、1号認定の子どもの枠が45人増え、2号が45人減る。保育所型に移行する2園の地域はそれほど影響ないと思うが、幼保連携型に移行する芹田東部保育園がある芹田地域での需要

発言者	内容
事務局	<p>供給バランスは大丈夫なのか。15人程度なのでそれほど影響はないのか、むしろ1号が少なくて困っている地域なのかもしれないが、そのあたりはいかがか。</p> <p>また、幼保連携型認定こども園には学校薬剤師の設置が求められている。今まで保育所の芹田東部保育園には薬剤師はいなかったと思うが、決まっているのか。</p> <p>2号認定の子どもの数については、芹田東部保育園がある第3提供区域は、第二期子ども・子育て支援事業計画では179人プラスの区域なので、15人減になっているが、ほかの園でカバーできると判断した。</p> <p>薬剤師は、学校薬剤師会に依頼をして選任していただいている。</p>
事務局	<p>(3) 長野市子どもの貧困対策計画の策定について</p> <p>資料に基づき説明</p> <p>《質疑応答》</p> <p>委員 全体として国の状況より良かったのは非常に安心できる。数字が小さいからと言っても、重篤な状況に陥る可能性があるということは承知しておられるようで安心したが、数字が少ない、小さいから大丈夫という考え方ではなく、そういう方にこそ目を向けていただきたい。</p> <p>事務局 取りこぼしのない、取りこぼさない、そういった施策に取り組んでいく必要があると思っている。十分慎重に、検討してやっていきたい。</p> <p>委員 ヒアリングの調査対象の団体に保育所とあるが、4歳から5歳の子どもを対象としたアンケートの対象となる施設が保育所だけになった理由はなぜか。</p> <p>事務局 4歳から5歳については、子どものアンケートができないので保護者のみを対象としている。加えて、保育所や学校に配布や回収の協力を得るという方法もあったが、今回については、市民から無作為で抽出して郵送でアンケートを取っている。</p> <p>ヒアリングの対象団体の中にある保育園、児童館等については、ヒアリングはまだ実施していない。新型コロナウイルスのオミクロン株が急速に拡大した状況があり、できればこれが収まった時期にヒアリングを実施したいと思っている。個々の施設を選ぶということではなく協会などを通じて行いたいと考えている。</p> <p>委員 アンケートの対象となったのはあくまで無作為であって、保育所から抽出した4、5歳の保護者ということではないということか。</p> <p>事務局 そのとおりである。</p>

発言者	内容
委員	<p>授業が分からなくなった時期として、小学3、4年生の頃が20.9パーセントという数字を見て、驚きを感じている。こんなに分からなくなっているということをも改めて数字で見て、小学校3年生、4年生の時期というのはとても大事だと改めて思った。学校の規模によって35人の上限いっぱいで行っている学年もあり、ちょうどこのぐらいの時にそういう影響もあるのかと思っている。支援員も配置していただいているが、3、4年生の頃に分からなくなっているのであれば、学年が上がるに従って更に分からなくなっていくのは当たり前なので、私どもも気をつけて指導していきたい。</p>
委員	<p>このアンケートを取った後、どの部署と結果を共有して、どのような施策をするのかという、今後の展望のようなものはあるか。</p>
事務局	<p>子どもの貧困対策計画については、令和4年度に本格的に策定していくが、エビデンスになるものとして今回アンケートを取っている。これまで、庁内の12の所属で、こども未来部を中心に、今回のアンケートの関係や、それぞれの貧困対策の事業について情報を共有したり検討をしている。今後も計画の策定に向けて、これまで各所属で実施している施策も振り返りながら、この速報値も含めてアンケート結果を共有して、今すぐに打たなければいけない施策があるとするれば、その施策の見直しも同時に行い、幅広い、効果的な施策を展開していけるように、連絡会議を通して連携を強化していきたいと思っている。</p>
委員	<p>いつまでというのがあるか。</p>
事務局	<p>計画は令和4年度中に策定するが、貧困対策というのはずっと続いていくものである。今までも各所属の施策の中で取り組んでいるので、いつまでと言うよりも、今後継続して、見直しも行いながらやっていきたいと思っている。</p>
事務局	<p>庁内の連絡会議は、保健福祉部、こども未来部、環境部、商工観光部、建設部、教育委員会、この部局の中から12の所属で集まった構成となっている。教育も大事だが、例えば、母親が正規化して安定的な収入を得られるような部分として商工観光部も入っていて、今後も総合的、包括的にやっていきたいと考えている。ただ、総合的、包括的と言うと焦点がずれる部分もあるので、我々とするばどこに注力していくとか、そういったところも検討して、実効性が高められるようなものにしていかなければならないと思っている。</p>
委員	<p>小学校の3、4年の頃におよそ21パーセントの子が、勉強が分からなくなっているということだが、中2まで合わせると75パーセントの子が分からないということで、とんでもないことだと感じる。「分からない」の度合いは人によって様々だが、もし本当に75パーセントが分からないとすると、クロス集計してこのうちのどのぐらいが貧困層に当たるのか、相関関係を見ていかなければいけない。やはり学力というところが貧困のスパイラルを脱する手立てであると考えている。本</p>

発言者	内容
委員	<p>当にここを真剣に対応していかないといけないのではないかと。是非よろしくお願ひしたい。</p> <p>先ほどの12の所属という説明があったが、そこが末端でやるわけではなく、例えば学校の校長先生から先生たち一人ひとりが認識を持ってということが大事なので、部局で話し合って市役所内で終わるのではなくて、末端のところ、直接関連しているところまで届くように上手な情報の共有を行っていただければありがたい。各所属団体で情報を共有するために私たちが集まっているのかもしれないが、自分の関連のあるところに持ち帰って、そこで情報を共有して、困り事を抱えている人たちと末端に係わる人が上手に接することができるような形を作っていけるよう、施策だけではなく情報の共有ということで、皆が知る機会というものを手厚くしていただければありがたい。</p>
事務局	<p>支援関係者のヒアリングでも、アンケート調査を行って実態として思いもよらぬ結果が出るかもしれないという中で、この状況をきちんと可視化することが必要だという話があった。委員がおっしゃるとおり、できれば校長会などを通じて説明したり、様々な場面を通じて多くの方々にこの状況を知っていただく、そういった手立てを考えていきたいと思っている。</p>
委員	<p>先ほどの保育料のことになるが、長野市は国の基準額に比べて保育料がすごく安い。それを知らない市民がすごくいると思う。無償化が一番良いのかもしれないが、国の基準額よりこれだけ優遇されている、そういう情報をもう少し自信を持って市民に出していただくと、「長野市にいて良かった」という、ほかよりすごく良いんだという優越感を持って長野市に住めると思う。やはり、良い情報はたくさん市民に出していただければありがたい。情報の共有という面で、そちらの方もやれば良い。私たちもできるだけ手伝ひをしたい。皆でやっていければ良いと思う。</p>
委員	<p>可視化というところで、どちらかと言うとデータの整理をしている事業者にお願ひしたい、あるいは、もし可能なら、そうしていただきたいというところだが、資料4の2は全てパーセンテージで書いてある。パーセンテージは非常に分かりやすい点があるが、不正確な部分もある。例えば表の一番上に有効回答者数と送付数を入れる。つまり、その資料を見たときに何人から回答があつて、それは何人に対して配つた結果なのかということが必ず分かるようにする。併せて、本当はパーセンテージ単独で載せるというのはあまり良いことではなく、実数とパーセンテージを併記して、実数を書いてパーセンテージは括弧を付けた方が良い。得られている有効回答数が異なっているので、その中からの何パーセントかというのは、やや当てにならないというのがある。そういったところがより正確な理解につながると思う。</p> <p>また、今回のアンケートの設問が国の調査をベースにしているもので、全てできるわけではないと思うが、例えば、家事の手伝ひや兄弟姉妹など家族の世話している子どもについて学習時間がどうなっているのか、子どもから勉強のことを</p>

発言者	内容
	<p>話してくれるというのが後の成績にどう影響しているか、不安感を感じているものなどについても項目と項目にどういう関係があるかとか、多変量解析、クラスター分析、回帰分析などを行うことによって、何と何の間にどういう因果関係があるかということ进行分析していただきたい。</p> <p>そういった結果を誰にでもより分かりやすい形でまとめていただくと、多くの方に協力いただいたアンケートなので、より正確で、かつ今後の変化、推移を知る上でも有効な情報が得られるのではないかと思います。その点検討いただきたい。</p>
事務局	<p>まず市民にとって分かりやすいということが前提にあると思うので、ご提案がこういった形でできるかも含めて十分検討し、事業者とも練っていきたい。</p>
委員	<p>学習に引っかかりができた時期について、16、17歳の子どもの結果を見ると最も多いのは高校1年生の頃で28パーセントと、小学5年生・中学2年生とまた別の数字になっている。どのあたりに問題がありそうなのかということを探るのがこのアンケートで、それによって可能性があるところを更に深掘りし、ターゲットをもう少し細かく丁寧に見ていくという方向性が良いと思う。読みようによっては色々な読み方ができると思うので、どう読むか、誰が読むか、どういう角度から読むかというところが問題になってくると思う。</p> <p>市長の公約で、子育て総合支援センターの設立がある。どういう形で実際に生活に困っている方に支援を届けていくかということに関しては、センターがまさしくその役割なのかと個人的には受け止めている。庁内の連絡調整会議の枠を超えて、現場の先生や諸機関が一緒になって色々な課題に向かって解決していく、そういう組織ができようとしている、そういうイメージなのか。それとも全く別の話なのか。</p>
事務局	<p>子育て総合支援センターは市長の公約の中の施策として、令和4年度からの開始を目指している。もともと市長の思いとしては、子育て世帯の親にしてみると、子どもを育てる喜びもあるけれど不安や悩みもある中で、長野市の子育てに関する相談の窓口というのは、保健センターのネウボラであるとか、こども未来部のこども相談室、保育園の子育て相談など、色々なところに相談窓口があり、なかなか分かりづらい、相談内容によって違うところへ行かなければいけないという状況で、統括的な部署が必要ではないかということで、相談窓口のワンストップ化ということが基にある。</p> <p>そういった中で、今ある窓口を1つの場所に集めるという発想では、ものすごく大きな場所が必要になってしまうので、そういったものではなく、各相談機関が連携し、例えば、本庁の子育て総合支援センターに来たとしても、教育センターで就学の相談をリモートで受けられるなど、複合的な課題を抱えた方に対して相談の調整の機能を中核の機能として持たせるという考え方である。相談が入口となって、その内容によって色々な部署が連携して行政のサービスにつなげていくという仕組みを、子育て総合支援センターとして設置するという考えに基づいている。今回の貧困対策についても、例えば、経済的な関係で親が困っている、やりたいことがあるのに親の様々な状況の中で自分の思いが届かない、</p>

発言者	内容
委員	<p>という相談を受けたとすれば、相談から施策につなげていくというのが一つの方向性である。また、色々な相談機関が事例を抱えている中で、それを共有して、チームを組んでその方のケアの方法を皆で検討するような、そういった形での支援につなげる場所にしていきたいと考えている。</p> <p>子育て総合支援センターと、この子どもの貧困については別物という答えだと受け止めたが、子どもの貧困というのは、色々な機関が連携して、色々な角度から同時に手を差し伸べていく必要があると思う。庁内の色々な所属の連絡調整会議だけだと、どうしてもそれぞれの所掌事項の谷間、隙間に落ちてしまう、どの所属の仕事でもないということができてしまって、実はそこが一番助けが必要なところだと思うので、是非しっかりと対応できるような形で進めていただきたい。</p>
事務局	<p>相談というオペレーションと、政策立案というものを分けて考えた方が良いと思っている。子育て総合支援センターについては、一義的な業務は相談というオペレーションになる。その相談業務の中で、それぞれのセクションとセクションの間に狭間があって、そういったところに落ち込んでしまっている子どもたちの、あるいは家庭の支援を具体的に個々に行っていく。そういった相談業務から導き出された課題というのは当然のことながらフィードバックをして、こども未来部あるいは市役所全体の中で企画立案し、政策として展開していく。それぞれのセクションが役割を持っているが、まず子育て総合支援センターに関しては、個々の相談に応じていくというオペレーションが第一義にあって、市役所の中でそれを共有しながら政策立案につなげて、お互いがフィードバックをしていく、そのような形でとらえていただければありがたい。</p>
委員	<p>アンケートのまとめ方について、なぜ小学校5年生と中学校2年生を同じ枠でまとめてあるのか。小学5年生のグループと中学2年生のグループは別々に聞いているので、勉強が分からなくなったのも、小学5年生はいつ頃、中学2年生はいつ頃というようなデータとして出てくると思うのだが、どうして一緒にしているのか。</p>
事務局	<p>今回についてはアンケートを回収してからの、まとめる時間がタイトであったことから、速報という形で調査票が同じ小5、中2をまとめて集計したが、最終的な報告書の中では小5と中2を分ける形で集計することを考えている。</p>
	4 その他
	5 閉会